

令和 5 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特 4			学校名		県立常陸太田特別支援学校										学校長名		齋藤 正					
教頭名	大島 聖子					教頭名		神山 茂俊								事務長名		須藤 和幸					
教職員数	教 諭	84	養 護 教 諭	2	常 勤 講 師	9	非常勤 講 師	3	実 習 助 手	2	寄宿舎 指導員	0	事務職員	4	技 術 職員等	7	計	111					
児童・ 生徒数	部	1 年			2 年			3 年			4 年			5 年			6 年			合計			合計 クラス数
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	幼稚部	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	小学部	6	4	10	5	4	9	3	1	4	11	4	15	23	4	27	18	3	21	67	19	86	21
	中学部	13	5	18	11	6	17	9	5	14	/	/	/	/	/	/	/	/	/	35	14	49	12
	高等部	17	5	22	13	7	20	14	9	23	/	/	/	/	/	/	/	/	/	44	21	65	12
	専攻科	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	合計																		146	54	200	45	

2 目指す学校像

- ◆一人一人の学びを大切にする学校
- ◆家庭や地域と共に歩む学校
- ◆地域の特別支援教育の推進に貢献できる学校

3 現状分析と課題

項目	現状分析	課題
安全・安心な 学校づくり	・年度初めに危機管理マニュアルの更新の実施、避難訓練を中心とした防災教育の実施を行った。 ・地域の方と連携して避難所初期対応訓練を実施した。 ・コロナ禍のため、保護者会は分散で実施、行事は後日配信等の対応を実施した。PTA 活動も、研修会をオンラインで実施した。 ・熱中症対策ガイドラインを作成し、環境条件に応じた活動内容を明確にした。	・危機管理マニュアルの更新と活用の仕方について検討する。 ・避難所初期対応訓練において、教職員への周知や共通理解を引き続き実施し、学校全体としての防災力を高めていく。 ・感染症対策を充分にとる中での安心安全な学習活動の実施と、保護者の学校行事の参観方法を検討する。 ・熱中症対策ガイドラインを活用し、徹底を図る。
学習指導	・学習指導要領に基づき、育成を目指す3つの柱での小・中学部の各教科、各教科を合わせた指導の年間指導計画を作成し、実践と振り返りをとおしてICTを効果的に活用した授業づくりに取り組んでいる。 ・国語・算数・数学のステップアップシート（学習段階表）をもとに、一人一人の実態に応じた系統的な指導を行うことができるように努めている。 ・ドライブを活用した学習データや各教科の教材教具の共有と活用を円滑に行い、効率的に授業準備を行っている。 ・読書タイムや算数・数学チャレンジタイムでは、学習効果を高めるために、児童生徒が目標設定をした上で日々の指導にあたっている。	・学習指導要領に基づき、各教科等における目標を踏まえた指導内容を設定し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくりを行う。 ・日々の授業における学習評価の方法について検討する。 ・国語・算数・数学のステップアップシート（学習段階表）を効果的・効率的に活用する方法について検討する。 ・ICTを効果的に活用した教材教具や授業実践の共有を行い、学習指導の更なる充実を図る。 ・読書タイムや算数・数学チャレンジタイムの充実を図る。 ・自立活動の時間における指導を中心とし、児童生徒一人一人に合わせた学習計画の作成及び授業実践の充実を図る。
キャリア教育	・開校から現在に至るまでの本校におけるキャリア教育実践についての考察をまとめ、博報堂教育財団が募集する論文に応募し、博報賞を受賞することができた。 ・「いばらきキャリア・パスポート」を活用し、特別活動係と連携を図りながら、記入を進めることができた。 ・各部体験学習、インターンシップでは、「OTA キャリア教育プラン」に基づいて評価表の様式を見直し、各部間で系統性のある評価を実施することができた。	・キャリア教育推進のための校内研修(地域の方との意見交換等)を隔年で実施し、関係機関との連携を図りながら意見を聞くことで、さらなる充実を図る。 ・特別活動を中心とした他の教科係との連携を図りながら、「いばらきキャリア・パスポート」の記述と活用を推進し、児童生徒が日々の学習状況や自身の変容・成長を自己評価できるよう努める。 ・各部体験学習では、事業所等との連携を図り、校内外で直接的・間接的な活動を継続できるよう柔軟に計画し、実施する。

地域の特別支援教育の推進	・学校間交流は、小・中学部は開校より同一校と継続実施しており、新型コロナ禍においても、内容を工夫して交流の実施ができた。高等部の交流についても、実施方法や人数を工夫して交流を進めている。 ・幼児教育施設や小中学校、高等学校からの依頼に応じて巡回相談や就学・転学にかかわる相談を実施し、地域へのセンター的役割を果たすよう努めている。 ・多様なニーズに対応するため、校内外における研修やケース会議を実施している。 ・特別な支援を必要とする全児童生徒の支援について、自立活動の視点をふまえた助言ができるよう努めている。	・心のバリアフリーを目指す交流実施に向けて、特別支援教育や障害についての情報発信を行い、相互理解を図る。 ・直接交流のみならず作品や感想文などを交換し合う間接交流を実施し、特別支援教育の理解促進につなげていく。 ・各教育機関からの依頼に応じた巡回相談や専門家派遣、外部機関との連携を図るとともに、市町村教育委員会と連携して障害のある児童生徒の適切な学びの場を検討する。 ・多様なニーズに対応するため、巡回相談員の専門性を高めるとともに校内外における研修やケース会議の充実を図る。 ・自校の自立活動の授業内容の発信や自立活動係との連携による助言指導の充実を図る。
専門性の向上	・校内における研修会を実施し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業づくりに取り組んでいる。 ・I C Tを効果的に活用した授業づくりが定着しつつあり、「深い学び」の実現にむけて授業改善に取り組んでいる。	・各教科において「深い学び」を実現するため校内における研修会や外部講師を招いての授業参観を実施する。 ・各校務分掌が協力して研修を進めていくことで、効率的かつ効果的な研修となるよう工夫する。

4 中期的目標

1 一人一人の教育的ニーズに応じた質の高い授業により、学力の習得を図る。 2 地域との連携によるライフキャリア・ワークキャリア形成に向けた教育の充実を図る。 3 互いの個性や多様性を認め合える共生社会の実現に向け、交流及び共同学習の充実を図る。 4 児童生徒が安全・安心に学習や生活ができる環境整備の推進と、地域の特別支援教育を推進するセンター的機能を発揮するとともに、関係機関との連携による支援体制の充実を図る。 5 教職員の一層の専門性向上を図るとともに、地域及び障害の特性を踏まえた安全・安心な学校づくりを推進する。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 安全・安心な学校づくり	① 危機管理体制の整備 ② 地域と連携した安全管理 ③ 防災教育、健康教育の工夫 ④ 相談できる体制づくり ⑤ 保護者との連携

2 確かな学力の習得	⑥ 各教科における「深い学び」を追求した授業づくりの推進 ⑦ ICT活用による学習指導の充実 ⑧ 自立活動の指導の充実
3 キャリア教育の推進	⑨ 社会に開かれた教育課程の取り組み（OTA ぶどうプロジェクト） ⑩ 地域と連携した系統性のあるキャリア教育の推進 ⑪ 社会人講師による地域の特色を生かした作業学習 ⑫ 生涯学習への意欲を高めるスポーツ・文化芸術活動の充実 ⑬ あいさつの励行
4 地域の特別支援教育の推進	⑭ 心のバリアフリーを目指す交流及び共同学習の工夫 ⑮ 地域の特別支援教育を推進するセンター的機能の充実 ⑯ 多様なニーズに応えるための研修会の企画運営やケース会議の実施 ⑰ 小・中学校等への自立活動の指導に関する助言・援助の充実
5 専門性の向上と働きやすさ	⑱ 教員としての専門性を高めるための研修会の充実 ⑲ 社会人としての資質能力を高める研修の充実 ⑳ 教員間でサポートしあえる体制づくり ㉑ 業務削減と休暇取得の推進